

2018年度 事業計画
[法人本部]

| | | | | | | | | | | |
|------|--|--|---|------------------------------------|--|---|--|--|---|--|
| 基本方針 | | <p>【運営】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>①法人長期ビジョン及び第二次5か年計画の策定及び実施に向けて、財政基盤を固めていく。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>②中期的な法人本部人員体制の構築を開始する。</p> </div> <p>【会計】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>30年度は厳しい報酬改定となり収入減が見込まれることから、経費についても更に見直しを行う。また、法人も15年が経過し、各事業所建物の老朽化やエアコン・複合機等備品の故障・入れ替えが発生し始めている。今後の法人運営の方向を見据え、無駄のない設備投資を行う。</p> </div> <p>【総務】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>29年度監事監査にて助言いただいた有給休暇の付与方法、出勤簿の個人別書式への変更に取り組む。</p> </div> | | | | | | | | |
| 取組内容 | | <p>【運営】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">①</td> <td>平成30年度報酬改定内容を研究し、減収を食い止めつつ増収の道を探る。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>灘区内拠点の一体化構想への着手及び、新規事業参入をも含めて法人取組事業内容の再構築を検討する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>職員処遇改善の一環として、キャリアパス委員会及び処遇改善委員会を起ち上げる。</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">②</td> <td>本部事務常勤二名体制へ向けて方向性を確認して行動すると共に、事務局長後任者育成に取り組んでいく。</td> </tr> </table> <p>【会計】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>①各事業所の固定資産・備品と当該台帳との整合性の再確認 ②備品等購入申請時の適合性の詳細確認 ③助成金の活用に向けての情報の収集</p> </div> <p>【総務】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2019年4月度からの運用を目指し、有給休暇4月一斉付与の方法を確定すると同時に、出勤簿の様式変更(一人一葉)を実施する。</p> </div> | ① | 平成30年度報酬改定内容を研究し、減収を食い止めつつ増収の道を探る。 | | 灘区内拠点の一体化構想への着手及び、新規事業参入をも含めて法人取組事業内容の再構築を検討する。 | | 職員処遇改善の一環として、キャリアパス委員会及び処遇改善委員会を起ち上げる。 | ② | 本部事務常勤二名体制へ向けて方向性を確認して行動すると共に、事務局長後任者育成に取り組んでいく。 |
| ① | 平成30年度報酬改定内容を研究し、減収を食い止めつつ増収の道を探る。 | | | | | | | | | |
| | 灘区内拠点の一体化構想への着手及び、新規事業参入をも含めて法人取組事業内容の再構築を検討する。 | | | | | | | | | |
| | 職員処遇改善の一環として、キャリアパス委員会及び処遇改善委員会を起ち上げる。 | | | | | | | | | |
| ② | 本部事務常勤二名体制へ向けて方向性を確認して行動すると共に、事務局長後任者育成に取り組んでいく。 | | | | | | | | | |

2018年度 事業計画
[御影倶楽部]

| | |
|------|--|
| 基本方針 | <p>【一人ひとりの「しあわせ」を みんなで つないで ゆたかな街に】を実現するため、職員とメンバーがそれぞれの良さを仕事や日々の触れ合いを通じて伸ばしあう。紙すきやイベントを通じて、地域の人たちと触れ合う機会を増やして顔の見える関係を築く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 一人ひとりの願いに寄り添い充実した生活が実現できるよう、職員間で情報共有や話しあいをごまめに行う。仕事については、工賃アップだけでなくやりがいや責任感を持って取り組めるよう、引き続き仕事の幅を広げる。 紙すきや下請けなどの仕事だけでなく、レクや文化イベント、地域の教育機関での授業等を通じて法人内外の事業所や地域のさまざまな人とつながる。 地域で心ゆたかに安心して暮らせるため、生活についての学びや料理の実践を継続し、家族や医療・関係機関、行政との連携をより進める。 |
| 取組内容 | <ol style="list-style-type: none"> 一人ひとりの「しあわせ」を <ul style="list-style-type: none"> ●仕事の幅を増やし、一人ひとりにあった仕事が常にあるようにアンテナを張る。様々な仕事があることで、工賃アップだけでなくどのような障害や特性があってもやりがいを感じられる仕事が常に見えるようにする。 ●紙すき商品の品質を上げ、カタログやSNS等を活用してメンバーが自信を持って商品を地域の人たちに販売できるようになる。 ●全員参加型だけではなく、個別の要望に沿った少人数参加のレクを行う。 ●特別支援学校等の卒業生の新規利用者も楽しく安心して働ける雰囲気を作る。学校や病院等に積極的に働きかけ、新規利用者の契約につなげメンバー集団の活性化を図る。 ●業務およびメンバーの担当を複数体制にし、どの職員も他の業務やメンバーについて把握できるようにする。そのために管理職を鍵として、職員間の情報の流れを明確にしたり朝や夕方の時間帯にごまめに話し合いを行うなどして、職員間で常に意見や情報交換を心掛ける。研修や学習会に積極的に参加し、職員会議等で共有し学び合う。 つながりをひろげる <ul style="list-style-type: none"> ●白鶴酒造だけでなく、地域の企業と仕事やイベントを通じたつながりをより深める。 ●法人内の他事業所や地域の他法人事業所と合同で、仕事・スポーツ・文化活動などを開催する。きょうされんの利用者部会への参加等もより積極的に行い、メンバー同士の交流の機会を増やし地域の知り合いを増やしていく。 ●特別支援学校や大学へ積極的に訪問して授業やワークショップで学生と交流を図り、御影倶楽部のことを学生だけでなく先生やご家族にもっと知ってもらおう。 ●他事業所の職員と仕事だけではなくカンファレンスや研修等で交流し、学び合いやコラボレーション等で刺激を与えあう。 安心して暮らせるゆたかな街に <ul style="list-style-type: none"> ●暮らしの学びや料理の実践を続け、生活について出来る事の幅を少しずつ増やしていく。 ●家族および本人の高齢化に伴う家庭環境の変化に対応するため、病院・訪看・行政や法人内のすみれや他法人支援センター等と連携して暮らしの支援を進める。 ●地域で生活する独立した社会人として、メンバーの身だしなみやマナーについても向上を促す。 |

2018年度 事業計画
[エム・ワークス]

| | |
|------|---|
| 基本方針 | <p>★障害特性に合わせた支援計画の策定</p> <p>★メンバーが望む支援の実施</p> <p>★ご家族との連携</p> <p>★作業の出来る限りの安定化</p> <p>★事業の安定化およびメンバーの募集活動</p> <p>★OBの定着へ向けた継続支援</p> |
| 取組内容 | <p>★障害特性に合わせた支援計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの障害特性に合わせた、無理のない支援計画の策定。療育手帳の方と精神保健福祉手帳の方の支援は異なる。各々のメンバーに対しても、会話の内容や注意の仕方に変化が必要であることを意識する。すべてのメンバーに対しての支援が同一化しないように意識する。 <p>★メンバーが望む支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エム・ワークスでの2年間の過ごし方や、望む支援を本人から聞き取る。メンバーによっては、2年間じっくり就職に向けての訓練を受けようと思う方もおられるが、家庭の事情等で就職を急いでいる方もおられる。個々のメンバーに応じて、訓練が同一化しないよう意識する。 <p>★ご家族との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から学生の新卒が登録となる。3ヶ月に一度の面談において、ご家族のご意向も詳しく聞き取る。ご家族の意向を聞きながらも、飽く迄もご本人の意向を優先する。親から言われたのではなく、自分で決めていただく内容を重視する。 <p>★作業の出来る限りの安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な作業を組み合わせる中、できるだけメンバーに対して負担にならない作業計画を構築する。メンバーの意向は就職に向けての活動が最優先なので、作業が忙しいからといって就職活動を妨げることはしない。 <p>★事業の安定化およびメンバーの募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各支援機関との連携および支援学校との連携。引き続き定期的な訪問を行う。現状での受け入れはできないが、過去には他の事業所で受入れ不可が評判になり関係機関からの紹介が全くなかった事例があるので注意する。 <p>★OBの定着へ向けた継続支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に頑張っていたでいるOBもたくさんおられるが、定期的な支援の必要な方もおられる。企業との連携も常に取りつつ、いつでも連絡をいただける旨を伝えておく。できるだけ年2回のOB会への参加を促し、その際のコミュニケーションを重視する。 |

2018年度 事業計画
[咲くら工房]

| | |
|-------------|--|
| <p>基本方針</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 『我が事、丸ごと』地域社会』の本質を学びながら、木の芽福祉会の理念に添った支援を行う。 2. 個別面談を増やす。 3. 職員の安定を図る。 4. 弁当事業利用者の増員 5. 軽作業の見直し 6. 就労を目指している人も目指していない人もお互い支えあえる人間関係の構築を目指す 集団づくり |
| <p>取組内容</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 報酬改定の中、情勢を見極めながら「咲くら工房」のあるべき姿を問う。 2. 退職による新規採用職員1名への指導及び産休明け職員(弁当担当)への復帰対応 3. 弁当作業希望者へのシフト調整及び安定利用 4. 下請け作業の繁忙期と閑散期の仕事量のバランスを図る。 授産商品(韃靼そば茶)の販売会参加を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・東灘)しごとマーケットチーム ・灘・東灘)eプロ 5. 利用者同士で病気への理解を学ぶ。 レクリエーション活動を通じて利用者間の交流の場を増やす。 |

2018年度 事業計画
[六甲倶楽部]

| | |
|------|---|
| 基本方針 | <p>①利用者の出勤率をあげる。</p> <p>②お菓子作業の工程に利用者全員が参加できるよう工夫をする。</p> <p>③軽作業の内容を見直す。</p> |
| 取組内容 | <p>【全体】 お菓子作業の日程や作業工程を見直すと同時に軽作業の内容も見直し、全体の作業が円滑に回るようにする。利用者自身がそれぞれ”わくわく感”を持って取り組めるよう幅広い作業に挑戦してもらい楽しみを持ってもらう。</p> <p>【お菓子作業】 ○日程を週3日(1日)から週5日(半日)に変更することで出勤率のアップに繋げる。 ・余裕を持って作業に取り組むことができ、より丁寧な支援が可能となる。 ・過去、曜日が固定されてるので作業に入れなかった人でも、どの曜日にでも入ってもらえるようになる。 ○工程を細分化し全員が作業に関わるようにする。 ・ひとつの物を作る事で達成感や連帯感を高める。 ・簡単な作業からしてもらいお菓子に興味を持ってもらう。 ・食品を扱うことで衛生面などを学ぶことができる。 ○ハードルを低くすることで気軽な気持ちで作業に入ってもらおう。 ・新規の利用者にも、より魅力を伝える事ができる。</p> |

2018年度 事業計画
[ひらめの家]

| | |
|-------------|--|
| 基本方針 | <ol style="list-style-type: none"> 1. メンバー一人ひとりがひらめで過ごすことが「楽しい」と実感できる環境づくり <ol style="list-style-type: none"> 1) 作業の充実を図る。 2) レク等の活動の充実を図る。 3) 朝の会、終わりの会の充実を図る。 2. これまでのひらめの家の良さである「各自のペースでゆっくりくつろげる」と、上記1. によって作業や活動を通した「活気があって元気になる」の二つをを一つに融合する。 3. 作業、活動を通じて法人内外に仲間をつくる。 4. 上記1～3を通して今のメンバーの通所が増え、新規のメンバーが増えることにつなげる。 5. メンバーがそれぞれ抱えている生活の課題について関係機関と連携しながら対応する。今の社会資源だけでは解決しない課題に関しては法人の課題として提起する。 6. 灘区拠点づくり(移転)の検討を進める。 |
| 取組内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 作業の充実を図る。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 染め作業をひらめの家の看板商品として、ワークショップや他事業所とのコラボ等、積極的に取り組んでいく。 2) 下請け作業はメンバーにとって適正な種類と量にする。 2. レク等の活動の充実を図る。 <ol style="list-style-type: none"> 1) ジャグリングワークショップ等を法人内外の他事業所のメンバーと一緒に楽しむ。 2) 年間のレク計画を作ってメリハリのある内容にする。 3. 朝の会、終わりの会の充実を図る。 「朝の会」で各自のその日の作業、活動の予定を確認し、「終わりの会」で振返りと翌日(次回)の予定を確認することで明日への気持ちをつなぎ、自分の役割を意識できるようにする。 4. 事例検討会を開く。 職員の力を高めるために年間を通して継続的に検討会をもつ。 5. メンバーの生活を知り、そこでの課題を知ることで職員のメンバーを理解する力を高める。そのため、単にひらめの家での様子の共有だけでなく、生活全体の情報共有に努める。 6. どの職員もメンバーを地域で支えるネットワークを理解し、連携できる力を付ける。 7. メンバーを増やす方法は、全体の雰囲気活性化と、染め作業による宣伝活動を中心に進める。 |

2018年度 事業計画
[わかば]

| | |
|------|---|
| 基本方針 | <p>【目標】 「障害のある方が孤立せずに安心して地域生活を送れるように支援を行う」 「障害のある方やその家族にとって身近な相談場所とする」 「自分の可能性を見つける場・多様な生き方を認め合える場・生き辛さに寄り添う場とする」</p> <p>1. チーム支援を行う。 ・事業所全体で支援を行う。更に法人内の他事業所や関係機関との連携を強化する。 2. 支援者としてのスキルアップを目指す。 ・相談支援(面談・電話)に関するスキルや、プログラムの企画・実施などのスキルの向上を目指して外部研修などに参加する。 ・法人内他事業所での実習を継続して行う。 3. 地域の社会資源としての役割を担う。 ・自立支援協議会(くらし部会)での活動に参加する。 ・ピアサポーターに関して、わかばとしての取り組みについて検討を開始する。 ・地域活動支援センターの意義や役割について利用者の声を集めて発信する。</p> |
| 取組内容 | <p>【基礎的事業】 ○プログラム活動の設定と実施に関して以下のような更なる工夫を行う。 ・利用者のニーズ:従来の「ミーティング」「意見箱」以外にもニーズを知るための手立てを考える。 ・癒しや余暇活動:わかば来所以外の時間にも個人としての生活を楽しめるきっかけになるプログラムの実施。 ・社会性の習得:障害があるために獲得が難しかった社会性を習得するプログラムの実施。 ・アート活動の充実:グループ作品・個人作品にこだわらず自己表現の場を確保する。 ・問題解決のヒント:困りごとや悩み・わかばので課題に対して、職員の相談だけで解決するのではなく、皆で解決のヒントを得られるようなプログラムの実施。</p> <p>【相談支援事業】 ○訪問相談: 一人暮らしの方だけでなく、来所しづらい状態の方に対して訪問による相談支援を行う。 ※定期的に来所可能な方への支援だけでなく、来所者数に反映されない来所しづらい方の支援に取り組みたい。 ○職員の相談支援力向上: ・研修に参加したり、事業所内で事例検討をするなどして支援力を向上させる。 ・来所が難しく電話相談だけで繋がってるケースも少なくないため、電話相談スキルをアップするとともに来所に繋げる支援力を身に付ける。 ・相談内容は多岐にわたるため、社会情勢や福祉動向にも目を向ける。</p> <p>【日常生活支援事業及び社会参加促進事業】 ○生活支援: ・生活上の課題について本人の希望を大切にしながら改善策を共に考え、必要な社会・福祉サービスの情報提供を行ったり、その実現のために関係者(介護支援専門員や区役所など)との連絡調整を行う。 ※高齢者福祉との連携が増えているため、良い形で連携して支援していきたい。 ○就労支援: ・就労に興味を持っているがまだ自信のない利用者に対して、相談やプログラムを通して関心や意欲を持ってもらうよう支援する。 ・ハローワーク、しごとサポート東部などと連携して相談や面談の同行を行う。 ○社会参加促進事業 ・昨年に引き続き、地域の他事業所と協力して「石屋川公園花壇」のボランティア活動を行う。 ・当事者の声を届けるための署名活動や芸術展への出品を行う。</p> <p>【障害理解のための普及啓発・地域交流事業】 ○地域交流: ・日曜日開所を活かして、地域の防災訓練や祭り・運動会などに積極的に参加する。 ○自立支援協議会「くらし部会」に参加: ・JR住吉シーア内のコープにて、サポートカードの入れ替え作業を行う。 ・近隣の大学での授業に参加して啓発活動を行う。</p> |

2018年度 事業計画
【あんず】

| | |
|-------------|---|
| <p>基本方針</p> | <p>障害のある方が安心して地域生活を送れるよう寄り添う支援を行う。</p> <p>「自分の可能性を見つける場」「多様な生き方を認め合える場」「生きづらさに寄り添う場」としての専門性を高める。</p> <p>地域活動支援センターの活動を行政や関係機関、地域、家族等にもっと知ってもらえるよう積極的に発信していく。</p> |
| <p>取組内容</p> | <p>【チーム支援】</p> <p>①あんずスタッフ間では、今年度は新任を迎えることもあり、少しでも気になること、困っていること、アイデア等、自由に発言できる雰囲気を維持し、活発なコミュニケーションを心がける。互いの強みを活かし、弱いところは助け合うことで利用者支援において最大のパフォーマンスを発揮することをめざす。</p> <p>②引き続き法人内外と連携し、支援のネットワーク作りを行う。イベント参加や事業所見学のプログラムを積極的に行い、近隣の事業所との関係づくりを通して、利用者が地域の社会資源と直接「顔が見える関係」ができるようにする。</p> <p>【支援者としてのスキルアップ】</p> <p>①キャリアパスに応じた研修への参加</p> <p>②日々の支援の中での振り返り。上記【チーム支援】にも書いたように、それぞれの意見を出し合い、互いに学ぶ。</p> <p>③あんず内で事例検討会</p> <p>【プログラム活動】</p> <p>①プログラムの目的や効果をできる限り分りやすくするとともに、利用者の課題や興味に沿った内容設定を行う。年齢に応じた楽しみ(友達と遊びに行く、一緒にごはんを食べるなど)は、社会性を身につける大切な経験でもあるが、障害のためにそのような機会を得られなかった利用者も多いので、今後なるべく楽しい体験を通して社会性を獲得できるようなプログラムを考案していく。</p> <p>②利用者主体の運営(企画、提案、準備や進行など)を心がける。</p> <p>③外部ボランティアによるプログラムの継続と充実を図る。</p> <p>④法人内外事業所とのコラボレーションによる利用者の表現活動をサポート 2017年度のボレロ音楽祭のようなイベントには今後も積極的に参加する。</p> <p>【日常生活支援と社会参加促進】</p> <p>①面談や電話相談によって生活上の悩みや課題に対する解決策を本人と共に考える。地域での孤立を防ぎ、家族や関係機関との連携による支援のネットワークづくりを心がける。</p> <p>②相談やプログラムを通じて就労支援を行う(作業所見学などの実施やしごとサポート、職業センターやハローワークとの連携)。</p> <p>③利用者同士の支え合い、助け合いができるよう、集団の雰囲気作りを行う。</p> <p>④感情のコントロールが難しく、他者の安全を脅かすような形で表出する利用者についてはあんずだけで抱え込まず、医療をはじめ関係機関との協力関係の中で個別支援に重点を置いた支援方針を考えていく。</p> <p>⑤新規利用者の受け入れと定着に力を注ぐ。</p> <p>【地域交流】</p> <p>①自治会や近隣の学童保育等との交流を行い、あんずを見学してもらえるような機会を作る。</p> <p>②イベント(自治会運動会、法人夏祭り・もちつき大会等)での交流</p> <p>③地域の人にも参加してもらえるようなプログラムを実施 (ひらめの家のジャグリングワークショップのようなプログラムなど)</p> <p>【障害者福祉推進と地域貢献活動】</p> <p>①2017年度は「木の芽福祉会をささえる会」や「ボランティアグループいずみ」であんず・わかばの体系的なプレゼンを行い、利用者の声や事例も盛り込んで、参加者には地活の役割を理解してもらうことができたように思う。2018年度は事業所紹介フェアでも同様のプレゼンを行うなど機会を作って、就労支援だけではない地活の支援について発信していきたい。</p> <p>②園芸ボランティアプログラムの継続</p> <p>③通信「葉っぱだより」やSNS(Facebook)の活用</p> |

2018年度 事業計画
[すみれ]

| | |
|------|--|
| 基本方針 | <p>障害のある方やその家族が安心して地域生活を送れるよう身近な相談場所になる。</p> <p>灘区への事業所移転に伴い、新たな地域との協力関係を構築する。</p> <p>チーム支援を行う。支援のネットワークを作る。</p> <p>支援者としてのスキルアップを目指す。</p> |
| 取組内容 | <p>【基本相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、社会資源とのつながりが希薄な人々への支援を行っていく。 具体的には情報提供や他機関への紹介・同行、障害福祉サービスの利用に関する支援など ・既存の社会資源についての情報収集、連携によるニーズの確認 ・高齢障害者に対する適切な理解と支援のため、介護保険関係機関との連携を図る。 ・法人内事業所と連携し利用者のニーズを掘り起こしていく。 ・木の芽家族会との協力関係を維持 <p>【計画相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則、灘区・東灘区の方を対象とする。 ・新規利用者を増やす。 ・木の芽の利用者の計画相談を増やす。木の芽だけで完結するのではなく、木の芽を通して自身のネットワークを広げていけるよう情報提供、連携を行う。 ・区・相談支援事業所連絡会や市内特定相談支援事業所連絡会での情報交換。顔が見える関係性づくり。 <p>【チーム支援・スキル向上・情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は非常勤職員が入るため、少しでも気になること、困っていること、アイデア等、自由に発信できる雰囲気を作り、活発なコミュニケーションを心がける。 ・キャリアパスに応じた研修に参加し相談支援スキルの向上を図る。 ・通信「葉っぱだより」やSNS(Facebook)等での活動紹介による地域への発信 <p>【障害福祉を取り巻く情勢への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報酬体系の改定に伴う福祉サービスの状況変化や、国が進めようとしている「我が事、丸ごと地域共生社会」の本質をつかむ。その中で木の芽福祉会のキャッチコピー「一人ひとりの『しあわせ』をみんなでつないでゆたかな街に」をどのように実現できるのか考えていく。相談支援専門員としての専門性を確保しつつ、地域性に応じた「支え合い」のネットワーク作りを行っていく。 |